

特集

# 地震は突然起きる



## いつかのその日に備えて

9月6日、北海道で震度7を観測した「北海道胆振東部地震」が起きました。

そして私たち八代市民は2016年4月16日、震度6弱の地震を経験し、被害状況は死者4人、重傷者12人、中軽傷者17人、住家被害は3113棟におよびました。（平成30年6月13日現在）

地震はいつ起きるかわかりません。もう一度、災害から命を守るために備えを見直しましょう。

▲熊本地震で被災した八代城跡の石垣

また、日奈久断層帯の3つの区間は別々に活動すると推定されますが、全体が同時に活動する可能性も否定できません。その場合には、M7・7―8・0程

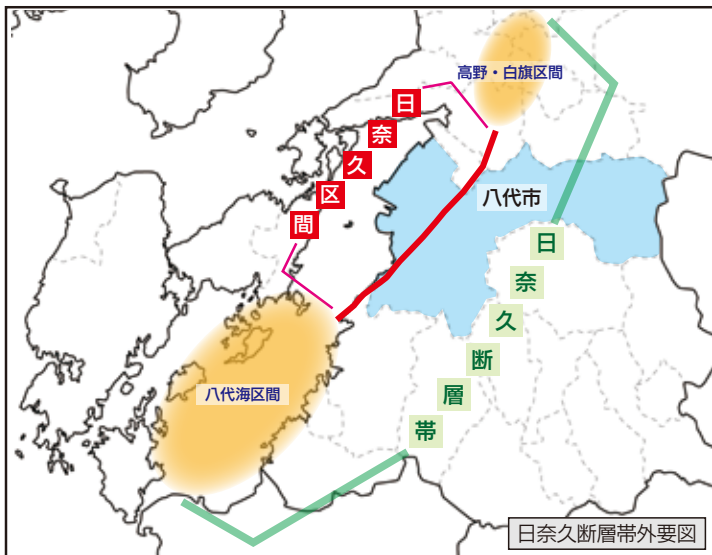
地震発生率には幅がありますが、その最大値をとると、八代海区间は、今後30年の間に地震が発生する可能性が、我が国の主な活断層帯の中では高いグループに属することになります。

日奈久断層帯は、益城町から芦北町を経て、八代海南部に至る断層帯です。本断層帯は、概ね北東―南西方向に延び、大きく3つの区間に分かれており、過去の活動時期から、高野―白旗区間（益城町―宇城市）ではM6・8程度の地震、日奈久区間（宇城市―芦北町）ではM7・5程度の地震、八代海区间（芦北町―八代海）ではM7・3程度の地震が発生すると推定されています。

# すぐそこにある危険

度の地震が発生する可能性があります。

本市は日奈久断層帯の日奈久区間に位置しており、マグニチュード7を超える地震がいつ発生してもおかしくありません。「いざ」というとき、「自分の命は自分で守る」そして「大切な人の命を助ける」ため、日頃からの備えが大事です。



出典「布田川断層帯・日奈久断層帯」（地震調査研究推進本部）  
 (https://www.jishin.go.jp/regional\_seismicity/rs\_katsudanso/f093\_futagawa\_hinagu/)(平成30年10月17日に利用)

# できることから始める、防災対策



災害発生時には自助、共助、公助の連携により人的・物的被害を軽減することができます。大規模な災害が発生したときは、公的機関が行う活動(公助)は交通網の寸断や同時多発火災などにより対応できない可能性があります。自分の命を自分で守るため、できることから始める防災対策を紹介します。

## 🏠 安心な家に住む

### 専門家による耐震診断

県では、安心して住み続けられる住まいの確保を図るため、戸建て木造住宅の耐震診断(一般診断)を実施しています。木造住宅耐震診断講習会の終了証の交付を受けた建築士が耐震診断士として、目視や図面などで住宅の地震に対する強さを診断します。

#### 【診断費用】

住宅の図面がある場合 5,500円(約9割補助)  
(60,000円のうち54,500円を県が負担)  
住宅の図面がない場合 19,000円(約8割補助)  
(87,000円のうち68,000円を県が負担)

### 住宅の耐震化

本市では安心して住み続けられる住まいの確保のため、木造住宅の耐震化を行う人にその一部を補助する制度があります。自宅の耐震化についてももう一度検討してみましょう。

### 各補助メニュー共通の要件

- ① 一戸建ての木造住宅で階数が3階以下のもの
- ② 現に所有者が住んでいるもの
- ③ 在来軸組構法、枠組壁工法、伝統的構法によって建築されたもの
- ④ 昭和56年5月31日以前に着工したものまたは、熊本地震で被災したことが証明できるもの
- ⑤ 申請者に市税の滞納がないこと

※要件は主なものを抜粋しています。詳細については問い合わせください。

まずは補助対象となるか事前協議を行います。12月14日(金)までに事前協議書を建築指導課に提出してください。上記以外の補助メニューや詳細は市ホームページをご覧ください。



### 補助メニュー一覧

補助メニュー	補助率	補助金の額
<b>耐震改修設計</b> 耐震改修工事を行うための設計費の補助	2/3以内	最大20万円
<b>耐震改修工事</b> 耐震性がない住宅を耐震性がある住宅に改修するための工事費の補助	1/2以内	最大60万円
<b>耐震建替工事</b> 耐震性がない住宅を解体し、同じ敷地で建て替えるための工事費の補助	4/5以内 (23%以内) <sup>※3</sup>	最大100万円 (最大60万円) <sup>※3</sup>
<b>耐震シェルター工事</b> 家屋が倒壊しても一定の空間を確保するための耐震シェルターの設置費の補助	1/2以内	最大20万円
<b>耐震改修設計工事</b> 耐震改修設計から耐震改修工事まで総合的に実施するものの補助	4/5以内	最大100万円

## 👤 事前に防災知識を身につける

八代市まちづくり出前講座は、市民の皆さんの要望に応じて職員が出向き、市が行っている事業や各種制度について話します。その中には災害への備えをどのようにすればよいのかを学ぶ「災害への備えについて」や建物の安全性や万が一に備えた耐震診断を学ぶ「自分でできる木造住宅の耐震診断」などがあります。ぜひ活用してみませんか。

#### 〈申込方法〉

八代市まちづくり出前講座受講申込書に必要事項を書いて、実施予定の2週間までに秘書広報課に提出してください。申込用紙は各支所、各出張所、コミュニティセンターにあります。詳しくは市ホームページをご覧ください。



## 📱 正しい情報を集める

市内に災害が発生したあとは、噂やデマのような断片的な情報に惑わされてしまうかもしれません。そこでさまざまな緊急情報を迅速にわかりやすくお知らせするために、パソコンや携帯電話にメールで緊急情報を配信するメールサービスがあります。正確な情報を市が発信しています。ぜひ登録しましょう。

[alert@ns2.yatsushiro.org](mailto:alert@ns2.yatsushiro.org)

に空メール




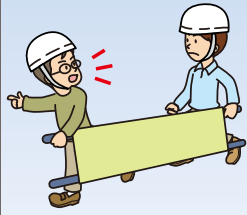



地震時の発信情報

# 地域での助け合い

災害に強い地域にするために地域での助け合い(共助)による地域の防災力が重要になります。地域の皆さんが連携して防災活動に取り組む組織、“自主防災組織”があります。自主防災の中心的な役割を担う自主防災組織は、非常時には地域をよく知っているからこそ「細やかな対応ができる」、現場の近くにいるからこそ「迅速な対応ができる」メリットを持っています。本市の自主防災組織の結成率は81.2%です。自分の地域に自主防災組織があるか、自主防災組織がある場合は、自分がどの活動班に入っているかを確認しましょう。

## 自主防災組織の活動内容

緊急時	災害情報を みんなに 伝える	みんなで 協力して 早めに火を消す	みんなの 避難を 助ける	けがを している人を 助ける	みんなの おなかを 満たす
					
	地域内の被害情報をすばやく、正確に伝える。	消防車が来るまでの間、無理しない範囲で初期の消火活動をする。	安全な経路を案内して、避難者を支援する。	けがをしている人を助ける。	飲料水や水の配布、必要に応じて炊き出しをする。

### ～みんなに 伝えたいこと～

## いままぐできる防災術

消防署を退職後、大学に進学。アメリカ合衆国連邦緊急事態管理庁 (FEMA) をはじめ欧米で視察研究し、現在は防災アドバイザーとして講演やFMやつしる「防災コーナー」で活躍中の隅川勝則さんに、「熊本地震」を体験して家庭や地域でできる防災術について聞きました。

### 4つのポイント

#### ① まずは“生き延びる”ための家具の配置と金具固定

1番危ないのは寝ているときです。家具や物が落ちてこないか、ドアの近くに家具が倒れて閉じ込められないか配置をチェックしましょう。金具固定ができないときは、ストッパーや滑り止めシートを上下2カ所以上留めたり、天井との隙間に空のダンボール箱などを置いて固定し、倒壊物からの圧死や焼死を避けることが大事です。

#### ② 逃げ込める安全空間を作りましょう

木造建物では、柱の多い場所やすぐ屋外に出られる場所に物を置かない安全な空間を作りましょう。3階以上の建物では、揺れが大きく長く続きます。電気製品などは飛び出し防止の工夫をしましょう。

#### ③ 楽しみながら非常食の備えと栄養バランス

日にちを決めて定期的に非常食を消費し、その分を改めて補充する「ローリングストック法」がおすすめです。被災時はストレスを受けます。事前に非常食を食べ比べて、好きなものをバランス良くストックしましょう。特に子どもは「脳や体格」の成長時期なので注意しましょう。

#### ④ 地域の防災力はサポート体制と訓練、それと“あいさつ”から

災害発生時には、電柱や建物倒壊で道路が遮断され消防車や救急車は走行できません。近所同士で助け合い、高齢者や身体が不自由な人を数人体制でサポートしましょう。八代はまだ地震が発生する確率の高い地帯です。地域の防災力は訓練と日ごろからの“あいさつ”から始まります。

### INTERVIEW



防災アドバイザー  
すみ かわ かつ のり  
**隅川 勝則さん**